

鎌倉市における戸別収集のあり方について方針（素案）の説明会概要

令和6年3月1日（金）18時から19時 腰越学習センター第4集会室

参加者18名

- 1 ごみ減量対策課担当課長挨拶
- 2 方針（素案）の説明
- 3 質疑応答

Q これからのスケジュールを教えてください。

A スムーズに進められる場合は、4月に審議会で答申を受け、5月に方針確定、6月議会に諮り、令和7年4月から一部エリアで戸別収集を開始し、令和8年4月から全市を対象に実施する想定である。

Q 葉山町や藤沢市の写真が出されているが、細い道や坂、車の入りにくいところなど、鎌倉の土地を考えた例を示してほしい。信用できない。

A 葉山町の写真は道が狭い所である。モデル地区の山ノ内は谷戸地形である。また、藤沢市は江ノ島でも戸別収集をやっている。

Q モデル事業の時に全市実施できなかった理由は。

A 当時は、戸別収集と有料化を同時に実施し、ごみの減量を目的としていたが、戸別収集のみで7億円かかることから費用対効果が低いということで、全市実施に至らなかった。

Q 有料袋が値上げされるのか。

A 値上げはしない。市の全体予算で調整する。

Q 実施目的の「多様なライフスタイル」が抽象的な記載である。あえてこういう表現をしているのか。

A 共働き世帯やリモートワークをされている方、夜間帯に働かれている方など、色々な方を含めてこのような表現とした。

Q 1万世帯はどのように選考するのか。

A 高齢化が進む地域や子育て世帯が多く居住している地域、過去のモデル事業を実施しており円滑な導入が可能と思われる地域、施設までの運搬距離が短い地域や燃やすごみの収集日を月・木、火・金で車や人の数を平準化できる地域を先行エリアと検討する。

Q 藤沢市はどの品目が戸別収集なのか。

A 布類などの資源物以外は戸別収集をしている。

Q 戸別収集になることでごみが減量するとは思えない。

A 排出者が明確になるため分別意識が働き、ごみの減量に繋がる。燃やすごみの減量効果は、モデル事業時の結果は 10%、有料化を行っていない他市も 16~17%と確認している。組成調査の結果から、資源物の混入割合が約 24%となっているため、全市的に見ればまだ分別の余地がある。

Q コストの試算について。収集回数の見直しなど工夫はしているのか。

A 燃やすごみは収集回数を見直すことは出来ないが、新聞については収集量が減少しているため、今後収集回数の適正化を図ることも検討している。